



神奈川県海老名市のご紹介

神奈川県のほぼ中央に位置する海老名市は、鉄道3線（相鉄線、J R相模線、小田急線）が乗り入れるほか、海老名インターチェンジ、海老名ジャンクションなどがあり、どこに行くにも便利です。また、水田や畑も多く豊かな自然に恵まれ、史跡相模国分寺跡をはじめ歴史のまちとしての一面もありにぎわいと自然・歴史・文化が調和する活力とやすらぎのあるまちです。

海老名駅東口にはビナウォークや海老名中央公園が、また、駅西口には、ららばーと海老名や西口中心広場、プロムナードがあります。小田急線とJ R相模線の駅間には商業施設や高層マンションなどが立ち並び、現在も開発が進められています。ロマンスカーミュージアムではロマンスカーをはじめ、小田急の歴史を彩る車両などが展示されています。今後も市の玄関口として、更なる発展が期待されます。



▲ロマンスカーミュージアム

海老名市のシンボル 海老名サービスエリア

地元民からも愛される人気のグルメ・ショッピングスポット『海老名サービスエリア』は、日本トップの集客数を誇るサービスエリア。上下線どちらも一般道から出入りすることができ、多くの地元民・観光客でにぎわいます。



海老名市の特産品 イチゴ

海老名市は、イチゴの生産が盛んで、神奈川県内一の共販出荷量を誇り、現在は『とちおとめ』『紅ほっぺ』などを出荷しています。また、海老名のイチゴを一年中楽しんでもらおうと海老名銘酒開発委員会で開発した『いちごわいん』は、1988年に海老名市特産品第1号に指定されました。

えびな市民まつり

海老名運動公園で実施され、毎年多くの来場者でにぎわう『えびな市民まつり』。会場内では一般団体や姉妹都市である登別市、白石市や、相互応援協定都市のブースをはじめ、ステージ出演などさまざまな企画を実施し、海老名の『魅力』『活力』『地域力』を発信します。今年は11月16日(日)に実施し、色鮮やかな花火が、秋の澄み切った海老名の夜空を彩ります。



海老名市訪問市民ツアー参加者募集



本年、登別市は神奈川県海老名市との姉妹都市提携10周年という節目の年を迎え、6月にはこれを記念して海老名市で記念式典が開催されます。市は、この記念式典に合わせて市民の皆さんで海老名市を訪問する記念ツアーを行いますので、ツアーの参加者を募集します。

●日程

月 日	行 程
6月28日(土)	登別市役所発 E X P A S A 海老名サービスエリア ロマンスカーミュージアム 記念式典歓迎会に出席
6月29日(日)	箱根（ロープウェイ、芦ノ湖海賊船） 小田原城
6月30日(月)	鎌倉鶴岡八幡宮 高德院（鎌倉大仏） 登別市役所着

●定員 20人（応募多数の場合は抽選）

●参加料 50,000円（1人1室）

※参加料には行程中の宿泊費、一部食事代、交通費、国内旅行傷害保険が含まれます。

●申し込み 5月1日(木)～20日(火)17時30分に登別市姉妹都市等都市間交流協会（総務グループ内・☎⑤1130）

※記念式典の参加が条件です。

※見学内容は一部変更する場合があります。

詳しくは市公式ウェブサイトをご覧ください。



海老名市イメージキャラクター
『えび〜にゃ』

姉妹都市提携10周年 神奈川県海老名市を紹介します

本年、登別市は神奈川県海老名市との姉妹都市提携10周年という節目の年を迎え、6月にはこれを記念して海老名市で記念式典が開催されるとともに、登別市は市民の皆さんから参加者を募り海老名市を訪問する記念ツアーを催行します。今号では、海老名市の登別市とのゆかりと海老名市について紹介します。



交流のきっかけは宮城県白石市との『トライアングル（3市）交流』

登別市と海老名市の交流の始まりは平成21年11月に、登別市の姉妹都市である宮城県白石市で開かれた『白石市農業祭』がきっかけです。この日、白石市の姉妹都市であった海老名市、白石市、登別市の3市が集い『家族、姉妹、兄弟、友達』のような関係が築かれるよう、3市間で『トライアングル交流』を実施する旨の合意がなされました。

平成22年4月には『三市による災害援助協定』を締結し、同時に、海老名市から本市に消防自動車5台を寄贈いただくとともに、本市はそのお礼として海老名市にポニー2頭を贈呈しています。

平成23年4月、3市は『家族、姉妹、兄弟、友達』のような関係を築き、さまざまな分野での交流や相互支援関係を強化するため『トライアングル交流宣言書』に調印し、トライアングル交流がスタートしました。

平成27年5月には、本市と海老名市は姉妹都市提携を行いました。姉妹都市提携やトライアングル交流をきっかけに、本市の『幌別地区手づくり祭り』海老名市の『えびな市民まつり』白石市の『農業祭』など、各市の物産展において、それぞれの物産をPRしています。登別市は『登別市ブランド推奨品』を販売。毎年、本市の物産品を買うことを楽しみに会場に足を運ぶ方も多く、各市の市民との交流も活発に行われています。

海老名市との交流は10年、白石市との交流は42年、そして3市での交流から14年が経ちます。長きにわたって姉妹都市交流を行う海老名市との関係は、揺るぎないものになっています。

観光や経済、教育、小・中学生を中心とする文化交流、スポーツ交流にとどまらず、災害に見舞われた場合など、お互いに支援が必要な時に助け合う関係は今後の登別市にとって大きな財産となります。

現在、行政だけではなく、市民間の積極的な交流が展開され、きずなはより一層強くなっています。

本市は、異なる地域特性と魅力を持つ3市の友好関係をさらに深め、互いのまちの発展につなげていきます。



▲平成22年4月『三市による災害援助協定』締結の様子。写真左から内野優海老名市長、風間康静前白石市長、小笠原市長



▲平成22年4月に海老名市で行われた『消防自動車寄贈式』の様子



▲本市から海老名市に贈呈したポニーたち。写真左からミルク・ビーナ、チョコ・エビー、ココア（チョコ・エビーの仔）